

愛しの湘南

新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年3月2日から休館していたコミュニティセンター湘南が4月1日、開館。これを待っていたのが柳（ヤナ）ーズバンド。コミセン湘南で間もなく練習を再開する5人に春の笑顔が戻った。

新型コロナにめげない5人

4月4日の「さくら祭り」など湘南地区で予定されていた春の3つのイベントが「コロナ禍」で中止。出演が流れ沈んでいた柳ーズバンドが再び動き出す。リーダー・青木照夫（ギター）の合図

で鈴木龍夫（アルトサクソフ）、鈴木洋（ベース）、永野良雄（トランペット）、藤間真由美（キーボード）がスタンバイ。茅ヶ崎ゆかりの加山雄三、サザン・桑田佳祐の「君といつまでも」「チャコの海岸物語」などの演奏を始める。



常に全力投球の鈴木龍夫さん

サクソフは84歳鈴木龍夫さん

メンバー最年長は昭和10年生まれ、84歳の鈴木龍夫さん。戦後、進駐軍とともに上陸してきたジャズにしびれた。大手ベアリングメーカーの藤沢工場に入社後、ジャズ主体のバンド創立に関わってから43年間、トランペット、サクソフを吹き続けた。

ところが定年退職した1年後、妻が脳卒中で倒れる。龍夫さんは「これまでの恩返し、今度はオレが面倒を見る番」と決心。近所付き合いを自粛、サクソフも封印した介護生活は、妻が亡くなるまで18年に及んだ。



松尾自治会のわくわく夏まつり

音楽

といつまでもモ

柳ーズバンド



昨年のさくら祭りで熱演する柳ーズバンド。手前はフライングキッズ=わくわく公園で

虚脱状態に陥った龍夫さんを救ったのは、やはり音楽。柳島の近く住む永野さんから「中学の吹奏楽部以来のトランペットを始めただけど、一緒にやらない」と声をかけられた。2人で練習を開始して間もなく、同じ柳島で生まれ育った青木さんが「この地域に軽音楽部があってもいいよね」とバンド青写真を明かす。龍夫さんの目に輝きが戻った。

地元イベントで活躍

龍夫さんの弟・洋さん、紅一点の藤間さんが加わり、ヤナーズバンドの旗揚げは平成27年12月。途中、バンド名を地元・柳島の「柳」をより意識して柳ーズバンドに。

湘南地区のお祭りなど年4、5回、ステージに上がる。平均年齢70歳超とは思えない熱演に会場が華やぐ。「いい湯だな」「きよしのズンドコ節」に手拍子、「ダンシングヒーロー」ではリズムに合わせて体を動かす。

「昨年9月の柳島例大祭のとき、やっと一つのチームになったと感じた。ステージの前で一緒に踊ってくれる子どもたちを見ると、うれしくなるね」。龍夫さんのつぶやきだ。

1日も早い新型コロナウイルス感染の終息、柳ーズバンドがステージに立つ日を待ちたい。



柳島神社の柳島例大祭

◆4月1日から開館 コミセン湘南が通常運営に戻りました。各会議室、調理室、子どもの家などをご利用ください。茅ヶ崎市の方針により、新型コロナウイルス感染予防対策の徹底、使用制限を加えての開館。このため、入り口でのアルコール消毒、マスクの着用等にご協力をお願いします。

☆トピックスは裏面

湘南からの提言「貢献寿命」

【1月11日 賀詞交歓会】茅ヶ崎市関係者、湘南地区代表者など100人が出席。佐藤市長は精力的に会場内を回り地元の声に耳を傾けた。2次会のカラオケでは歌と笑顔が爆笑。人生100年「健康寿命、時代ムードが漂う中、後藤コミセン湘南会長の掲げる新年スローガンは「貢献寿命」。「健康を保ちながら、社会・地域に貢献しよう。目的を持つことでさらに元気に過ごせるのでは」と後藤会長は語っている。



スマホでお料理を

【令和元年12月12日 料理講習会】奥田講師が年末年始のホームパーティーを意識した「おいさを求めて!」のメニューは、ブイヤベース鍋風、ローストポークなど5品。6人が初参加で、スマホ、デジカメ持参の人もいた。料理を作りながらパチリ、出来上がりをパチリ。「味は舌で記憶、作り方は映像で記録」が料理教室の新しいスタイル?

トナカイさん出現

【令和元年12月21日 大人のパン教室】定員12人のところに18人が応募、ドイツのクリスマスパン「シュトレン」に挑戦。パン作りの行程で生地を休ませる「ベンチタイム」には、講師の根岸さんが材料を売っている店、紅茶の選び方などをレクチャー。最後に砂糖をふりかける段階で男性が突如トナカイに変身、クリスマスムードを盛り上げた。



マイク片手に地区代表のど自慢50人が熱唱

【2月15日 カラオケ交流会】ステージ衣装に身を固めた中島・大森さんの「越前岬」を皮切りに、湘南地区の6自治会「推薦歌手」がコミセン大会議室で歌いまくった。50人が50曲を披露、歌う直前に曲名変更もご愛敬。昼休み時には柳カンタービレが登場、ハンドベル演奏で会場を和ませた。各地区の応援団も大勢駆けつけ、午前10時から午後3時までノリノリ。最後の抽選会で大根などが当たると「えっ、これが賞品?」とビックリ、ニンマリ。初の試みは成功、当然のように「来年もまたやって」のアンコールが起きた。



見て感動! 作って楽しい「日本の美」

【2月20、27日 手まり作り教室】昨年春、松本市で目にした「信州てまり」の美しさに感動した菊池さん。本、YouTubeなどを見て作るうちに「この楽しさ、他の人にも伝えたい」と講師役を買って出た。コミセン事務局の女性5人が芯作りから協力、教室でも12人の生徒にアドバイス。2日間、約4時間にわたり直径2cmの球に糸を刺し、幾何学模様の梅柄手まりを仕上げた。柳島から参加の女性は「わが家では毎年3月、雛の吊るし飾りをおこないますが、今年はこの手まりが加わり、一層華やかな雛祭りになるでしょうね」。



「手前味噌」の賞味は秋まで待つ

【2月21日 味噌づくり教室】こちらの講師は、コミセン料理講習会などでおなじみの前田さん。自宅で味噌づくりを始めて8年、一度も店で買ったことがないという「手前味噌」も明かした。材料は大豆、麴、塩のみ。煮てつぶした大豆と麴、塩をしっかりと練り合わせ、空気を抜きながらボール状にした後、袋に詰める一が本日の授業。2kgの味噌パックを手に帰宅した皆さん、これを食べられるのは常温、暗い場所でじっくり寝かせ発酵する10月ごろ。味噌づくりの基本は「冬に仕込み秋まで待つ」ですから。



コロナショックでコミセン湘南も3月休館

【3月2~31日 コミセン湘南閉館】中国武漢市で発生した新型コロナウイルスの日本での感染拡大防止のため、茅ヶ崎市はコミュニティセンターなど公共施設の休館を決めた。コミセン湘南の29日間の長期休館は初めて。好評講座「地域の歴史を知ろうー藤間家住宅」最終回、3月5日の現地見学が延期され、転倒防止教室、歌体操ねばし、よちよちらんど、カンガルーなど3月に予定していた行事はすべて中止。予約など受付業務のみ行った。

